滋賀県
レイカディア大学
米原校　サポート隊通信

＜大学祭特集＞2019 年（令和元年）９月１日発行　第 16 号

大 学 祭 開催［7 月 24，25，26 日］

今年も素晴らしい創意を発揮した作品を見ることができた。毎年思うことだが、これだけの創作物が披露できるということは我々シニアパワーも、まずは気力を全開、そしてやり遂げる体力を持続して、遺憾なく発揮できていることである。成果を見せていただいたことに在校生に感謝するとともに拍手を送りたい。

40 期園芸学科：筆文字がひときわ注目を集めた。仲間を一人失った悲しみと彼の無念さをばねに輝き続けていただきたい。健康で毎日が「明日はこんなことをしよう」と常に前向きに生きたいものだ。

40 期北近江文化学科：けっこうなお点前で。雰囲気がとてもよい茶店を開店して頂いた。どなたのアイデアなの?

40 期健康づくり学科:高齢者を標的にした詐欺被害をテーマに熱のこもった演技に拍手喝采。面白かった。

アンパンマン木工教室

よい樹会：リズムダンス

古民具体験：石臼とカロム

園芸学科の創作物

課題学習発表会

園芸４件、北近江文化４件、健康づくり２件、と課題に挑戦して、それぞれ成果を得ることができた。総体的に斬新な視点のもとに果敢に取り組んでいて、天晴れな仕事をしている。（発表順）

園芸１ **日本庭園の復活**	一にも二にも地域貢献活動だ。伐採と剪定の違いを理解したのは迷人から名人に昇格した証拠。日本庭園が復活して、覚えず表彰されるおまけまでついて、レイカの名を上げた。
北近江文化１ **近江の災禍**	着想がユニーク。災害を史実として昔の文献から調べる視点が人気のなさというか、余りテーマとしては思い浮かばない。学究肌の取組みとして拍手を送りたい。
園芸２ **かいぜ寮**	障害者施設での活動。催しを通して交流を入れたのは、剪定だけに終わらない、レイカの真骨頂発揮。広大な敷地での解体、掃除、花壇づくりとなんでもござれ。大変だ。
健康づくり１ **喜びの実践**	住民への説明、納得、実地検査、結果の理解と周知への道のりは容易でない。健康寿命の有り難さを理解した人は毎日が楽しく暮らせる。このことが自分たちの喜びに変わった。
北近江文化２ **多景島**	意外と自分でも知らない島々の一つ。古墳があったとは驚きだ。見塔寺縁起に島の歴史、出土品調査と詳細に調べ上げている。勉強になりました。
園芸３ **高源寺**	妙心寺派の古刹の整備。活動を終えた後始末に以降どうするかは重要で、檀家があるので檀家に託するように仕向けている。継続性のある手厚い支援を所望する。
北近江文化３ **保内商人**	保内商人て何？。このマイナーな存在が探究心につながった。八風街道を実地に歩いたのには頭が下がる。ほとんどの人が新知識を得た功績は大きい。
健康づくり２ **びわ湖一周**	よくもまあ、これだけきめ細やかな数値表現ができましたね。素晴らしい。男性の歩く距離が少ない人でも、琵琶湖 3.4 周、695 ㎞踏破。毎回歩くのが楽しみだ。
園芸４ **八風会**	老人福祉施設での作業。特筆は炭を焼いたこと。廃れる貴重な炭焼きを伝授しますか。広範な作業に北村先生の詳細な助言がうれしい。ツツジ 300 本の手入れあなたはできますか。
北近江文化４ **北国街道脇往還**	加賀の前田家が通ったであろう北国街道の脇道。いわば、陰の道なのであろうが本街道に劣らず宿場があり、東海道に出るには便利な近道だ。立派な調べものになっている。

サポート隊活動

北近江学科部会

「高月認定こども園の訪問」

在校生に対する今後の地域貢献活動への取り組みを示唆する意味で、毎年卒業生と共同でボランティア活動を実践している。今年は事前打ち合わせを経て、5 月 23 日に 37 期生 8 名、38 期生 8 名、39 期生 7 名、40 期生 14 名、41 期生 10 名、草津校 38 期生 1 名の計 48 名が参加した。こども園の先生方の協力も得て、園児 200 名を前に紙芝居やじゃんけんゲーム、腹話術、アンパンマン、よし笛演奏を披露した。園児たちは何が始まるかと、目をキラキラさせながら期待に膨らんでいた。子どもたちと名残惜しくお別れする光景には、園児に夢と希望と感動を伝えられたことを見て取ることができた。

地域活動への取り組みの意義を理解したうえでの、卒業生と在校生の共同活動の成果と自負している。この良き伝統を継承していけることを願う次第だ。

紙芝居はじまるよ

腹話術ができるとは実に芸達者な人だ

交流行事部会
「愛知川河畔林の愛林活動」

新名称「米原校レイカディアの日」の活動として愛知川河畔林の愛林活動が雨の中、挙行された。レイ大OB、在校生 87 名と愛知川河畔林の会会員 7 名、合計 94 名が集結した。合羽の中は汗まみれ、竹に着いた煤で手袋、合羽は黒くなり、切り株に足元をとられ、不用意に倒れてくる竹をよろけながら避ける。こんな状況の作業に休憩と昼食には、サポート隊の天ぷら班が揚げる野草と筍の天ぷら、それに前日から用意した筍ごはんをありがたく戴き、ほっと一息つくことができた。

大勢なので短時間で済む！

天ぷら班で活躍するサポ隊員＋応援者。皆さんのもてなしで辛い作業も吹っ飛んだ。熱い油との格闘、お疲れ様でした。ありがとう。来年も頼みますよ。
中央右が副部会長の三橋女史。先頭に立って裏方をまとめてくれた。裏方部隊はこの日の催しにはなくてはならない存在になった。わたし達も協力していきますよ。

面積にしてわずか 50m四方以内でありながら慣れない作業はきつい。敢えて雨の中での作業の決行は、予備日では集まらない作業者の数の確保と何よりも参加者の意志を尊重した上での意思決定である。過酷な作業はわたし達の社会への奉仕をより強く印象付ける試練でもある。我われは粛々と奉仕作業に従事する満足感を感じ取るのだ。

クラブ活動：37 期　みなよし会とみてみ～な会のジョイント

37 期生の卒業後の活動組織名が、北近江文化学科の「みなよし会」と健康づくり学科の「みてみ～な会」は卒業旅行を一緒に楽しんだことを契機に、今までの 3 年間、合同で多くの活動を実施してきた。その活動方針は協調性をもって接し、活動を通じて生き甲斐と喜びを共有し健康寿命を延ばすことにある。歴史探訪やハイキング、男の料理教室など、両会が得意分野を担当し、年間を通じ 10 以上のイベントを実施している。特に近江歴史探訪は年間 5 つも実施している。

この手つきは日頃、奥さんに協力しているのかな

西浅井菅浦のジオラマ

昨今は学年を超えて 38 期北近江文化学科「みつわ会」が参加するようになり、ますます賑やかで充実した活動となってきた。

グループのつながりができると、今後の催しの企画が多彩になって研鑽の幅も広がる。更に、人とのつながりが広がると、その知人が興味を持って、参加者も増えてくると思われる。レイカディアの卒業生のグループの中でも一番大きなグループに成長しそうである。個人の飽くなき知識欲を満たすためにも、また会を存続、維持するために頑張らなければならないと肝に銘じている。

湖北で活躍する「みどり会」のボランティア活動

「みどりの会」は、米原市旧近江地区のレイカディア大学園芸学科の卒業生が、同大学で学んだスキルを活かし、地域の環境整備に貢献するために結成したボランティア団体です。現在会員数は１６名（男性１４名、女性２名）です。４月から１２月までの第２月曜日に活動しています。主な活動として、米原市の社会福祉施設「やすらぎハウス」の松、梅、キンモクセイ、サザンカ等を剪定し、隣接する「双葉中学校」、「ほおずき作業所」の木々を手入れしています。活動日は午前９時集合です。簡単な打合せの後、剪定作業の開始です。剪定作業は約２時間で終了します。その後、「やすらぎハウス」の休憩室で、お菓子を食べながらの情報交換です。この情報交換が「みどりの会」のチームワークの良さに繋がっていると思います。

「みどりの会」は、明るく、楽しく、身の丈に合った活動を目指しており、活動中は、会員の皆様の笑顔が絶えません。今後も微力ながら地域社会に貢献したいと思います。

やすらぎハウスにて

学生応募者数減の危機を訴える

学生募集プロジェクトは三年前に米原校の入学者の減少を憂慮して同窓会の有志が学生募集の取組みをサポート隊内に発足した。サポ通 15 号の記事にある活動を通して学生の応募を期待した。募集開始直後の低調から大学祭後に少し盛り返した。応募者数は 8 月 5 日の募集締め切り後の数は 33 名（園芸 21 北近江 5 健康 7）と定員（70）の 47%であった。昨年の応募者 54 名から 38%少ない状況であった。

応募減の要因に定年延長、政府要請の働ける場の拡大、老後の蓄えの確保の問題、高齢者の車免許証返納等の社会情勢により、レイカディア大学へ行く心の余裕がなくなってきたのも見逃せないかもしれない。

この状況をふまえ、次のような活動が必要ではないだろうか。

①県の社協に募集に取り組む組織を設置する。

②県社協の募集組織と学生募集 PJ 要員は、各市町の社協の活動とタイアップする。その活動とは市町の地域福祉課が力を入れている、シニア世代の仲間づくり講座の開催やシニアが活動するグループ結成への支援を指す。市町の社協職員と連携し、集まるシニアの会を紹介してもらい、大学の魅力を伝える。要は地域で根強くシニアと結びつこうと頑張っている市町の社協職員に教えを乞うて、人をグループを紹介してもらうことにある。

③在阪民放各社に滋賀県の取り組みを説明し、その実体として、学生生活の様子や卒業生が地域で活躍している様を取材、放送にこぎ着ける。大学の存在価値をテレビを通して広く広報する。

今後の議論が待たれる。

熱心に説明する中川リーダー

≪編集後記≫ 広報を担当して早１年、最終号は大学祭の課題学習を取り上げた。何かを創造するにはエネルギーが要る。グループの結集力は始動時に瞬発力を発揮し、忍耐を養い成功へと導く。多分、ほとんどの人が未経験なことに携わったことになるので、その喜びと達成感は大きいのではないだろうか。わたしはと言えば、紙媒体の広報は初めてで先輩の教えで成長させていただいた。広報部会に所属しての賜物だ。

サポート隊通信 2019 年(令和元年)9 月 1 日第 16 号
発行：滋賀県レイカディア大学
米原校サポート隊(広報・情報部会)
□ 米原市下多良 2-137(県立文化産業交流会館)
滋賀県レイカディア大学米原校内
□ 電話：0749-52-5110
□ HP：http://lacamaibara.com